

「上手小学校の上手俵踊り伝承活動の取組」

1 学校名

薩摩川内市立上手小学校

2 学年・人数

小学1年生から中学3年生（計20人） <令和2年度>

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和2年8月～10月 上手地区コミュニティセンター

(2) 発表の日時・場所

令和2年9月17日（木） 上手地区コミュニティセンター

令和2年10月8日（木） 上手小学校体育館

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事や史跡について

(1) 名称

上手俵踊り（かみでたわらおどり）

(2) 由来

昔は神社のお寺等の落成式や祭典などに催し物としてよく相撲が催された。これを勧進相撲と言ひ、寄進されたものを土俵上に積んで見物客に披露し、謝礼の意を表した。当時の寄進は大部分が米であったので、化粧まわしを締めた関取が相撲甚句を唄いながら円陣形をとって踊り、土俵祭が済むと飾ってあった米俵をリレー式に土俵外に出した。これを踊りにしたもので、上手校区の楠原地区で踊り継がれている。

(3) 構成等

踊りは人数にきまりがなく、数人または数十人が一組となり、木綿の着物にもんぺをはき、足袋を草履履きで向こう鉢巻きに白木綿タオルで、黄色襷を着けた姿で踊る。また、踊り子は長さ50センチあまりの米俵を一俵ずつ用意し、お囃子は赤襷を着けた三味線と太鼓である。

5 保存会や地域との連携の具体

昔は、楠原地区で踊られていたが、踊り手の減少などから途絶えていた。平成8年に「禰答院町ふるさと祭り」の特設ステージで楠原小組合による「俵踊り」を披露することになり、同地区の小中学生を含む25人が夏休みから練習を始めた。以降楠原地区で、踊られてきた。平成17年に「上手俵踊り保存会」を発足させ、上手小校区員を対象として団員を募り、練習・発表するようになった。平成22年に「薩摩国分寺秋の夕べ」での披露が決まり、団員を原則5・6年生全員と希望者にして人数確保に努めてきた。しかし、児童数の減少もあり、平成26年からは、毎年6月に原則4年生以上は全員とそれ以下は希望者を募り、団員を構成するようになった。

学校の教育課程外の活動になるため、楠原地区出身の市来美年子氏を中心に楠原婦人会が指導者となり、地区コミュニティセンターで、夕方の時間帯で練習するようにしている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら、踊りを継承していくために、6月下旬には、地区コミ、踊り保存会、PTA、学校の代表者で構成される俵・松島節踊り運営委員会を開催している。事務局は学校に置かれ、委員長はPTA副会長が務めている。毎年同時期に運営委員会を開催し、豊日雲神社での秋の大祭で、俵踊りの奉納ができるように、話し合っている。

今年の団員は中学生も参加した。練習では中学生が小学生を指導したり、中学生の三味線に合わせて小学生が踊ったり縦のつながりを感じる活動が展開された。

今年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から夏祭りや神社での奉納踊りが中止となった。せっかく練習してきた踊りを披露するために、感染対策を徹底して2回披露の場を設けた。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



8 参加児童生徒・保護者等の感想・意見

【6年生】

コロナウイルスのせいで神社での踊りができなくて残念だったけど、中学生と楽しく踊ることができて良かったです。

【教職員】

地域の伝統を校区民一体となって守っていこうとするところに、小規模校の良さを感じた。地域の指導者を中心として、子供達同士の縦のつながりもできているところが素晴らしい。今年は新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、例年通りの活動ができなかったが、それでもできる範囲で活動できたことは良かった。今後は組織の機能化を目指して、この伝統が途絶えないような工夫をするべきだと感じている。

【保存会から】

今年は、中学生の参加があり、中学生が小学生に教える流れができて良かった。10月8日、小学校はこの日に踊りの披露の場を設けているが、中学校は通常授業の日であり、中学生が参加できなかったのが、9月17日の夜に中学生も含めた発表の場を設けた次第である。

少ないながらも、一生懸命練習に取り組む姿の子どもを見てみると、とても頼もしい。親の協力体制もしっかり整えていきたい。